

平成25年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(経済産業省25-6-4)

施策名	6-4 化学物質管理		担当部局名	製造産業局化学物質管理課	政策評価実施予定時期	平成26年8月
施策の概要	化学物質の人の健康・環境への悪影響を最小化する国際目標を受け、規制強化の方向にある国際動向を踏まえ、経済の発展と安心・安全の確保を両立するための効率的かつ効果的な化学物質管理を実施する。			政策体系上の位置付け	6 保安・安全	
達成すべき目標	経済の発展と安心・安全の確保を両立するための効率的かつ効果的な化学物質管理を実施する。			目標設定の考え方・根拠	WSSD(持続可能な開発に関する世界首脳会議)2020年目標を達成する。	
施策の予算額(執行額) (百万円)	23年度	24年度	25年度	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)の一部を改正する法律案に対する附帯決議(平成21年4月15日衆議院経済産業委員会、平成21年5月12日産議院経済産業委員会) 環境基本計画(平成24年4月閣議決定) 	
	802 (755)	571 (466)	593			

【測定指標(項目)】

測定指標	目標	目標年度	測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠
1 経済の発展と安心・安全の確保を両立するための効率的かつ効果的な化学物質管理を実施		32年度	化学物質が、人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用、生産されることを達成すること(WSSD2020年目標)等が目標であり、本事業では法令に基づき申請される化学物質の審査や条約等によって提供が求められるデータの収集等を実施している。その結果、著しい悪影響をもたらすおそれがあると判明した化学物質は使用を制限する等の適切な管理を実施していくが、その成果は規制される物質の数量等で評価できるものではなく、目標値及び達成度を定量的に示す指標が存在しないため定量的な目標設定は困難である。

【達成手段一覧】

達成手段	予算額計(執行額) (百万円)			開始年度	関連する指標	達成手段の概要等	再掲	平成25年 行政事業 レビュー 事業番号
	23年度	24年度	25年度					
1 化学物質規制対策事業	492 (460)	443 (347)	472	平成21年度	1	I 化審法、化管法等に基づき、化学物質管理を着実に実施する。 II 化学物質に起因する消費者問題への対応のため、シックハウスなどの未解明の問題の解明に取り組む。 III OECD等の枠組みで、各国の分担による有害性情報の収集や、新たな安全性評価手法の開発・国際規格化を行うとともに、中長期的な目標である国際的な調和を視野にいれつつ、我が国と経済的関係の深いASEAN地域との化学物質管理制度調和を推進する。 IV 化学兵器禁止条約及び化学兵器禁止法の適確な執行並びに条約締約国としての責務を果たすため、化学兵器禁止機関(OPCW)が求める化学分析データ整備、人材育成を行う。	-	0603
2 経済協力開発機構環境政策委員会化学品プロジェクト分担金	8 (8)	8 (8)	8	平成10年度	1	OECD環境政策委員会の傘下の化学品・農業・バイオテクノロジーワーキングパーティとOECD化学品委員会との合同会合(化学品合同会合)によって統括されている化学品プロジェクトへ分担金を支出し、プロジェクトへ参加することにより、化学物質管理分野における国際協調を推進する。	-	0604
3 ロッテルダム条約事務局経費分担金	9 (9)	5 (5)	6	平成17年度	1	ロッテルダム条約は、化学物質の危険有害性に関する情報が乏しい国への輸出によって、その国の人の健康や環境への悪影響が生じることを防止するため、輸出国は、特定の有害物質の輸出に先立って、化学物質に関する情報を相手国に通報する等、輸入国政府の輸入意思を確認した上で輸出を行うこと等を規定したものであり、2004年2月に発効した。我が国においては、2004年9月より条約の効力が発生し、条約上の義務を履行している。	-	0605
4 スtockホルム条約事務局経費分担金	16 (16)	12 (11)	13	平成18年度	1	「Stockホルム条約」は、環境中での残留性、生物蓄積性、毒性(悪影響)が高く、長距離移動性が懸念されるPCB、DDT、ダイオキシン類等の有害化学物質(POPs: Persistent Organic Pollutants)の国際的な製造及び使用の廃絶、排出の削減、これらの物質を含む廃棄物等の適正処理等を規定したものであり、2004年に発効した。我が国は、2002年8月に加入し、条約の発効と同時に条約上の義務を履行している。	-	0606
5 経済協力開発機構環境政策委員会化学品プロジェクト拠出金	21 (21)	20 (20)	17	平成18年度	1	ナノテクノロジーによって次世代の成長産業の核として開発が行われているナノ粒子は、その微小性のために従来の物質とは異なる挙動を示す可能性が指摘されている。ナノ粒子の安全性に関しては、現在、我が国のみならず国際的にもその特性評価等の科学的な知見が不足しており、OECD環境政策委員会化学品プロジェクト内で加盟国の協力をもとに評価等の検討が進められている。我が国がイニシアティブをもって国際的にこの分野をリードしていくために、所要の拠出をOECDに対し行うもの。	-	0607